

6. 今年度の成果概要

今年度の成果概要を表 6.1～表 6.4 にまとめた。

表 6.1 今年度の成果概要（その1）（グリーンアノールの捕獲等）

項目	成果概要
定着地域での防除	<p>【小録金城公園】昨年度までの粘着トラップを撤去し、今年度新たに 1001 台設置した。CPUE は平成 29 年度の 4.338 から平成 30 年度は 0.366 と 1/10 以下になったが、平成 31 年度は 0.633 と捕獲が続く状態となった。今年度は 0.056 となり大幅に減少した。狭い範囲に高密度でトラップを設置し高い捕獲圧をかけたことで減少傾向となったと考えている。【那覇西高校・金城小学校・金城中学校】小録金城公園に隣接する那覇西高校、金城小学校、金城中学校において平成 30 年度から平成 31 年度にかけて捕獲を開始し、継続的に実施した。どの学校でも CPUE は昨年度と比べ減少した。【小録金城地区の街路樹沿い】アノールは道路沿いの街路樹にも多く生息していることから、小録金城地区の街路樹での捕獲を実施した。平成 31 年度から開始し、今年度も継続して 156 台設置した。周辺の小中高及び金城公園と同様に捕獲数は大幅に減少した。【小録金城地区の民家】民家の庭木もアノールの繁殖源となっている可能性があるため、平成 30 年度から対策を実施した。今年度はトラップを 47 地点の民家等に設置した。金城公園や小中高のように捕獲数が大幅に減少せず、トラップ未設置の民家等からの流入が考えられる。【那覇市の公園】これまでに捕獲のあった 17 公園に粘着トラップを設置した。11 公園で昨年度と比較し CPUE は減少した。【小録金城地区全域での捕獲状況】小録地区において調査を行った範囲に 100m×100m の任意のメッシュで集計した。小録地区では 72 メッシュで捕獲作業を行い、64 メッシュでアノールが捕獲された。昨年度と比べると、捕獲数は減少しており長期にわたる捕獲の効果が表れた。【真嘉比遊水地での防除】今年度、再び高密度に 1080 台のトラップを設置した。昨年度は真嘉比遊水地全体での捕獲を行っていなかったが、一昨年度より CPUE は減少した。</p>
分布調査	<p>【分布調査】昨年度確認したうるま市喜仲の地点から半径 1km 圏内の県道・市道の街路樹及び公園に 891 台のトラップを設置し、1 個体を捕獲した。捕獲された街路樹のすぐそばに資材置き場があったことから、工事車両等によって運ばれてきた可能性が考えられた。さらに広範囲に広げ調査したが、捕獲はなかった。【普及啓発活動】確認地点周辺の公民館 10 箇所、コンビニ 47 箇所にポスター掲示やチラシ配布を依頼した。【目撃情報】今年度は 11 件の目撃情報があり、那覇市及び八重瀬町の 4 地点でトラップ調査を実施した。すべての地点でアノールが捕獲された。このうち、八重瀬町は分布の南限となるが、造園会社の事務所から運ばれてきた可能性が高い。</p>

表 6.2 今年度の成果概要（その2）（グリーンアノールの捕獲等）

項目	成果概要
拡散の防止	人為的な分布拡散が懸念された物流センター、豊見城総合公園及び周辺地域において、分布拡散防止のため捕獲を実施した。今年度は物流センター周辺に 923 台設置した。CPUE は減少しているものの、依然として捕獲が続き、伐採など他の方法を検討する必要がある。豊見城総合公園では今年度 703 台のトラップを設置した。他地域と大きく異なり、在来トカゲ類がアノールよりも多数捕獲されている。
沖縄島における生息密度分布	これまでに沖縄島各地で実施した捕獲データをまとめ、現状での分布状況を把握した。市町村別では、那覇市が最も多く捕獲され、CPUE も 0.263 と最も高くなった。次いで、八重瀬町 (CPUE0.170)、豊見城市 (CPUE0.074) となり、うるま市 (CPUE0.001) でも 1 個体捕獲された。これまで確認のなかった地域でも目撃情報や捕獲があることから、徐々に分布を拡大している可能性も考えられ、今後も情報収集と詳細な分布調査を継続していく必要がある。
地域の防除体制構築	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、イベント等の対面での普及啓発が実施できず、アノール及びその他沖縄の外来生物に関する普及啓発ポスター (A2 サイズ 3 枚 1 セット) を作成し、小禄金城地区の児童館、学童に配布・展示した。

表 6.3 今年度の成果概要（その3）（タイワンスジオの捕獲等）

項目	成果概要
定着地域での防除	前期 (6 月～9 月) に 12 メッシュに 303 台、後期 (9 月～12 月) に 12 メッシュに 301 台のトラップを稼働させ、のべ 604 台分のトラップを恩納村及び名護市に設置した。トラップはハブ型、ゴム型、Doc 型の 3 種類を用いた。【恩納村】定着域の北部 5 地区において 152 台のトラップを前期・後期に渡り設置した。41 個体捕獲し、CPUE は瀬良垣で最も高かった。トラップの CPUE を比較すると、ハブ型が 0.21 と最も高く、次いで Doc 型が 0.15、ゴム型が 0.11 となった。【名護市】昨年度に捕獲された地点で最も北側に位置する名護市 4 地区に隣接する 1 地区を加えた計 5 地区において 150 台のトラップを前期・後期に渡り設置した。タイワンスジオの捕獲は無く、名護市の 5 地区に高密度に生息している可能性は低い状況であった。
分布調査及び拡散の防止	恩納村でタイワンスジオが捕獲されている定着地域のさらに北側の 2 箇所 (ゴルフ場、県民の森) に 50 台トラップを設置した。ゴルフ場において 1 個体捕獲された。このため、局所的であるが分布域は若干北側まで広がることになった。

表 6.3 今年度の成果概要（その3）（タイワンスジオの捕獲等）

項目	成果概要
捕獲手法等の改良	【試験方法】咬みつき行動を活性指標とした試験方法を開発した。【トラップ開発】トラップの侵入口を開放系にした2段踏板式トラップの小型トラップを作成した。また、咬みつき行動を利用したヘビ類に特異的な1段踏板式トラップも作成した。さらに、これらを改良した新型2段踏板式トラップを作成した。
マンガース第三北上防止柵の改良による防蛇柵の検討	東村有銘及び名護市源河の県道14号線上において、タイワンハブが相次いで発見された。タイワンスジオも2019年以降、名護市東部の汀間、辺野古、豊原、久志で相次いで捕獲されるようになっている。このため、県道14号線に沿って設置されているマンガース第三北上防止柵に、外来ヘビ類の防除柵としての機能を付加することを検討した。検討にあたっては専門家にヒアリングを行い、柵の改修にあたっての主な課題を整理し、検証事項や実験内容を検討した。

表 6.4 今年度の成果概要（その4）（他の両生類・爬虫類の緊急防除の検討）

項目	成果概要
タイワンハブ	タイワンハブは名護市為又・中山地区を中心に拡大傾向にあるため、本事業による捕獲を検討したものの、本事業ではタイワンスジオの捕獲を優先した。タイワンスジオ対策で検討している防蛇柵はタイワンハブにも有効と期待される。
ブラウンアノール	台湾に生息しているブラウンアノールは苗木等の移動に伴って侵入が懸念された。このため、統計資料や関係者へのヒアリング調査を実施した。統計資料ではリンドウ科やラン科の輸入が多い。しかし、苗木等は乾燥された状態で輸入されるため、発見が困難な卵の状態での侵入する可能性は低いと考えられた。一方、成体が苗木等の物資に紛れて侵入する可能性はある。今後、花き類を取り扱う関係者に対してヒアリングを行い、輸入している状況であればポスター等による普及啓発を行うことが望ましい。

**令和2年度外来種対策事業（両生類・爬虫類対策）
報告書**

令和3年3月

沖縄県環境部自然保護課

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2

Tel : 098-866-2243 Fax : 098-866-2240

Email : aa039004@pref.okinawa.lg.jp

請負

一般財団法人沖縄県環境科学センター・株式会社島嶼生物研究所・

八千代エンジニアリング株式会社沖縄事務所共同企業体